



當流はなひ大全

へ 5
1607



門一利一
1607
巻



い 常流よりい大全



若舟 為名小阿比乃字六右
好小大築梅舟又同し 蛭子の文
まゝい 是更中つ物り 多ゆ小表
三節 毎どのせと あり ありあり
ありと目か絶よあり

伴勢の神 名おの伴勢 操いせ向
物いせ 送伴勢 御本乃うらりのいせ
あともあがりよ一あまてる神と
とくい名およ阿比乃流傘よ日
あまてる神とおのり伴勢出と
かゝる系更村とくともく
あまてる神 名およさささ
今更名およ阿比乃流傘い友あり
の神 名おの伴勢 操いせ向
あゝど但し 句神よよとて 伏
乃いのり目あり

乃いのり目あり
阿比乃流傘 名おの伴勢 乃無あり
が阿比乃流傘 名おの伴勢 乃無あり

岩屋 舟より打うせしむ

石小宗 西宮姫 其双六の石の石の石

石小宗 其破七の石の石

板橋 神祇あり

此只二名あり二此小宗 河三三

小池二名あり一此池 池池池池の

尾堀池の傍にあり名あり名あり名あり

池田炭 焼くまじりて名あり

一名字八の一村あり一町あり

一七の姫と云い同れらら名あり

一三あり

一門一教あり

一破只二名あり二傘小宗あり

市只二名あり二市の名あり

舟小宗あり二傘小宗あり

一山

一橋あり

一入道入の字あり

一妹小宗あり

一今小宗あり

一つづの字あり

一いさり火船あり

一舟小宗あり

あべ一坊の字を尋ねて一西と婦人

あふれ神う物ふさふ雑あり

あふれう急物のうらふと婦人

傘のまはる風一ふよふ
よふありねとあり

初の日雨のふりては
くはれぬおのちの西の空

あつたふりては
あつたふりては

くぬぐり野菜あぐ入やあつ白なり
あつばあきふあしど

鼻よ白ふかぐあぐ付くしきし
汁あめ汁。あつ。あつ。汁がひ。あつ

よかりくるるど
法所坊まららこれいあつあつ

人備あり。あつ。あつ。あつ。あつ
あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

おれは又二もさういふもれと
佛おき置かたふ西と屋
雲おれはあまふれど傘おれと

牡丹あつて草花目草あつてなちひ
うらあつてふ二あつて

傘おふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

刊記やふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

細江名ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

色の字は色は外あり

下は一ありふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

魚は一ありふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

おれはあつてふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

牡丹おれはあつてふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

牡丹おれはあつてふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

牡丹おれはあつてふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

牡丹おれはあつてふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

を里小登 居不 居不 傘小 掛列
乃らちふる居不 二句あり

戸八は外小とぞ。どがえ又とぞ
戸小上戸下戸二句を

戸とあちの居れわらう二句を
とぞ。一 居不 二句あり

戸とぞく戸とぞとたに軟にたれど
戸小意門とぞ。七句短あまれ戸の

居不あわとぞ傘小戸あふとぞ
一とぞ又と

とれあり。 軟とぞ。▲ 居不 居不
二句あり

管屋 居不ありあをこあゆとぞ
舟乃とばたれた又とぞ。一

居不とく船よりありゆあり
友二人 備ありゆひ二句とぞゆの

友ありひの朋友とぞゆふとぞも
ゆとぞとぞゆの友をゆのゆりゆ

友 町ありと上橋とれとゆのゆりゆ
又二階ありとゆひゆひゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

名指 名指字指の字はふ二句と
名指のく不指の字。かりきあひしと
付白さしふ

名指のく名指の字はふ二句と
とりのくの字はふ二句と
名指のく名指の字はふ二句と

名指のく名指の字はふ二句と
名指のく名指の字はふ二句と
名指のく名指の字はふ二句と

ちとまりニ白くおれりかへつらね
あざれまふんのあか目
らんつらんねらん乃かたらうのあ
らんゆらんあめあをさうに若
を

● 是只二名およ二傘子屋おと二人の
名字かたはて二のうりこ

小笠二名およ二小笠お所も二の口こ
おととてまへ一傘小小野三

人乃名字も二のうりあり
を近二よりとより二傘おとら
さきく一よりとより二又可あり

よりとより二もまへ一
より二傘おとら二たふ二方こ

進二日一まの目二画二まへ
小ふひ一あまおひ一おせんらた母
おとが二のうり

と書ゆへ二まへ二のうり二男
と書ゆへ二まへ二のうり二男

傘お女乃字よわと屋女らうら
とらと今一まへ一男おへ一と
ままもまお二乃うりあり

と一おとてのうりのまへ二柱お
よりおや二おあり

より秋二おのち一お二あり
まね乃よりひひ乃よりあり

と久二まへ一
よりおれまへ二おれまへ

より乃字おひつれて秋あり
とまへ一おとまへ一

小とが 付分はまへ
とまへ 一まへ二のうり

若にとらまへ二名おのまへ
つまへまへおまへ二名お

親よ子二名お二女子小名お
よおがら二まへ傘お女はまへ

おも一乃おれ二のうり二女
まへ二のうり二女はまへ

め猫め犬めとりめおれいんれおわさ
まの女中も女姓も七白さうりつべ
八傳おつら女房女姓おつらつら
てとていふさうす女のさあつら
さつらおれいんおつらつらとふら
さつら 女房もあつら
女よいもとむらあつら西さうり
是一おありさおわさとのおのさ
又一おさうさつら

●わ

我表王天子とてくさ大表おと
ふ人傳の外あり

王よありさうりの王の西表王主
西表さうり

王よ明王天玉おつら二白さ
和田の系 西表西表西表西表

お前よ 西表西表さうり
別は二一 西よ二 傘お別はの西
さうりくハ三のか

見し毎川をれさうり 傘おあり
かり糸の表 表あり

是別はのさうり 二白西表のさうり
い七白さうりおれいんおつら二白さ

別は二一おしけ二白西表のさうり
さうりさうりおつら二白西表

さうりさうり 西よ二 傘あり
わさ西よ人 西よ二 傘あり

おまの西よ二 傘ありの別はさうり
着おありの表もさうりさうり

西よ二 傘ありさうりさうり
七白さうり 傘ありさうりさうり

さうりさうりさうりさうり
わさ西よ一 傘ありさうり

おま一 傘ありさうり一 傘あり
さうりさうりさうりさうり

おま一 傘ありさうり一 傘あり
おま一 傘ありさうり一 傘あり

わさ西よ一 傘ありさうり
おま一 傘ありさうり一 傘あり

おま一 傘ありさうり一 傘あり
おま一 傘ありさうり一 傘あり

おま一 傘ありさうり一 傘あり
おま一 傘ありさうり一 傘あり

まづびかりう物あわらばきよとのを
まづから物あわらばきよとのを
わきれき難くうらなうあつて
花びらびらしてあつてあつて
綿ふもらん二つあり
りどれがごと 難のまふ二つ
とくこ 衣敷くむこ

●か

神只二名の神一名所の神一傘
一は神宮うち二の神 天神出神
あつてあつてあつてあつて
とらあつてあつて

神よ神よ神よ神よ神よ神よ
傘よ傘よ傘よ傘よ傘よ傘よ
神よ月よ月よ月よ月よ月よ
神よ神よ神よ神よ神よ神よ

神よ神よ神よ神よ神よ神よ
かまひといふとととととととと
深山池沼あつての只物あつて
とらあつてあつてあつてあつて

いと神よ神よ神よ神よ神よ
神のいととととととととと

うげりふ難くあつてあつてあつて
出乃あつてあつてあつてあつて
況とあつてあつてあつてあつて
らあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて
妻の目あつてあつてあつてあつて
とらあつてあつてあつてあつて
とらあつてあつてあつてあつて

とらあつてあつてあつてあつてあつて
國乃あつてあつてあつてあつてあつて
物たあつてあつてあつてあつてあつて
帳あつてあつてあつてあつてあつて

とらあつてあつてあつてあつてあつて
とらあつてあつてあつてあつてあつて
とらあつてあつてあつてあつてあつて
とらあつてあつてあつてあつてあつて

法あつてあつてあつてあつてあつて

新井 藤小池と浦中くもつゝあはれ
小舟小舟を結ぶ池と池の山并藤
新井とつゞきその新井尺段たれ
二句さうさへ

新井 秋もさきし傘ふ新井一
又里さうさへ一又さうさへ
今一以上三句あり

杜家 只今藤よ花と又さうさへ
首途よ門乃字七句短出のさうさへ
二句新井よあさへ

かかれ家一藤よあさへ
かかれ家よ世公いさあさへ
世たれいさあさへ

新井 妻の字日れ家たあさへ
らさうさへ

門 只今藤よ花と又さうさへ
よんとさうさへ
かさうさへ
て一とさうさへ

門 只今藤よ花と又さうさへ
かりぬさうさへ

秋よあさへ
門 只今藤よ花と又さうさへ
極てさうさへ

あさへ
又極てさうさへ

極てさうさへ

かさへ

今藤よ花と又さうさへ

別とさうさへ

上さうさへ

おぼろり二黙り二川より二つ内

おぼろり二つ内二橋より二草より二表二

鳥三秋二鳥ふるふも秋ひとひて

も秋ひかりごまひりてと秋ひ

故張紙かき傘又敷き火さして又故火

さすべしうひやいふのこも

かきまのこゆひてくゆゆくかまの

紙付付も杉合もち屋傘よま

点の羽おぼろりふれけりてて

おぼろり二つ内二つ内二つ内

持只一入あの一入三入三入

おぼろり二つ内二つ内二つ内

あかりのてんまふりーいれおれおれ
あふちの物さーいん
あふちの物さーいん

あふちの物さーいん
あふちの物さーいん
あふちの物さーいん

かろわどく云何の類にぞり可ら

傘小かろ一かろ一かろ一

友とかろ平あろろあろろ

ゆい二い伝渡梅渡あどのあろよ

い字をかりていもるべし

難よさそりていもる七の屋傘よ

うたふぞて三の屋うたふくぞ

みくもまかこるま

かや一とと云何二ぞりあろ

傘小白梅とていもる

雲乃屋定こ かくこ夜終こ

雲のあてまこあろ小他どま

かどまのあく清濁のかりあ

みざりていもるりあどと二の屋

よ

然不固小かろ二の屋こ品固ま

小いれまのいさろりす傘小

云何意よ二只一ととこ

代只二并代一傘小考代一

代一又いといを小かろとて

世只二出傍二仏乃世二

通世二志懐二世乃人二

世は世二仏世あり何も面

とくのうたわらばは出傍

傘小く世出傍乃世仏世

これよさろとて六む面と

世とゆ月時かあも世か

世れまのいもるま

秋のまろいあろ

秋は二青二傘小青二

青あ青時青あはれあ

青時か小娘と秋のま

ろりだの若植物も

蓮生 秋雨よ二

秋雨小屋傘よ蓮生

蓮生あどの生ま

てどろりるる

蓮生あをれあ

よのらああ

政よむ二白姫也白梅ふらふべ
「糸只二糸小二傘小只二糸小」
秋の陽る戸のあつ付白汁と姫
まふまておれより二方さしふ
又うさよあてれさし
うさささまの傘ふた今借交の也
只まのよあつめとてしてさし
うささ二燈を二つ小の燈のさし
世の宗とさし一うさささささのさ
あり秋のまよとさしおきて二
丸

大星 秋紙あり傘と糸ささる乃
おハ一舟に一白の地あつらふ
うねとけ傘いさ西と姫傘小若板
あつとさささしふ

竹ふらひらあつらふらうさ色と白姫
竹のさあつれあり
うね二嶽二傘小只二若小又さしと三
さ乃さ八さかるとさささ八のさりさ
さ乃さ八さかるとさささ八のさりさ

竹小糸竹只白姫竹小糸竹と白姫
玉八之傘小玉只ささささ又二心とみ
玉一わさ玉の字二白姫別小一字を
若只二若也二傘一只二若也二若の
戸糸也二若也戸糸のさりさ若の戸
小戸の七白姫傘小若の戸糸而紙
姫戸の糸のさりさ山紙糸也二白
竹よささ木お紙とさささ

竹小結後二白姫竹小ささの三白
竹小川竹三白竹小糸糸二白
若只二若也二若の若さのさお
裏小さささ

若山紙二若也川山紙お紙と
竹のさ 秋紙之若也ささささ
竹とくく又白竹糸竹田の若三白姫
裳二さ小七白さささ

若只一若也一若也又さささ
翻云とく二ささささ
若一ささ一若也の目ささささ

廿夕 秋分の月日 二日 極月日 あり
いさひのくち 秋分 あり

七夕 一七 七 夕 あり 一 ね せ ぐ
ふ べ 一 七 夕 あり 二 日 極 傘 あり
七 夕 あり 天 の 川 あり 極

た 多 門 あり 田 あり 字 あり あり
田 あり 田 あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり

田 あり あり あり あり あり あり
田 あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり

玉 あり 木 あり 珠 あり 七 日 極 傘 あり 玉 あり 木
あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり

薪小燵面（？）と云ふ
薪小 蕪丈 二句云々

檜（？）はく 桧物（？）は打（？）と云
檜（？）はく一花おも（？）と云

焼火 薪（？）はくお（？）と云
二句焼火の傘お（？）と云

くわ（？）はく（？）と云
た（？）く（？）お（？）と云

た（？）く（？）お（？）と云
ま（？）お（？）と云

松乃（？）はく（？）と云
松乃乃（？）はく（？）と云

たり（？）と云（？）
丹乃（？）はく（？）と云

松乃（？）はく（？）と云
松乃乃（？）はく（？）と云

それれを来亦わら修とよめるも
古今乃を近乃立亦もさるぬ
とよめるも是こ一序ふ一は
とよまると又さる一。多ふり
は後乃まぬと付てさる一かど
しめぬふ たさる二有也

●れ

是奇よ 款打と也
是ん卷よとどこれ面以とさ
かされとゆれとこれぬとさ
下和乃内とが二有あり

例ゆらぬ例よとさこれのよ
考ふよむるもがとさ奇也と
とさうがう能ふもさるさ
ふ例ゆらぬ云とと二さる一
たぬらぬ面以とさ備を中
ゆらぬ云病乃たぬらぬとさ
礼一礼な也礼らぬとさとさ
とさる一

●り

礼八之け外小字天又るさ
礼一と天久と云井ふらぬも二
礼よと天又七句とさる

外面二面れ字ふ七句は余よ
外の字の字の去し外面の字
乃用之柄かりりての西れ字
礼二余よと奇二これの三あり
を味 縁勤の出世の字とさ
礼らぬとさる一

礼のぬらぬとさる一
但禮おぬらぬとさる一
余よと礼れとさる一

礼らぬとさる一
礼らぬとさる一

魁と秋と傘ふそつあをとを
 想ひのふふ巧くどあををわ
 かり増あときかり又ほあ
 そくぐ わすり あり物ふ二句
 種れぬ 種のをたふあり物とを
 と海のものに借物とに仕まらぬ
 舟のうへ海ふと又急を魁と海
 乃るふ仕まらるゝ急と海と二句
 算物と松竹をあをれ煙ひは
 乃旁思ひの煙をか打都とさふ
 そ一ふふふかかれれどそのれ二句
 存の字とさうりるべ一存命と存
 存志がきもいふらあり
 つ

月と星の絆若くは月と星のりり
 月あ名の絆いふふは巧くど
 月の友人梅おれと但句種ふ二句
 傘ふ月の友人梅と月と友魁と梅と
 月西二つと月とくのふふふ

三日月とるゝの回まよてもう
 他八がう秋あともう一からん
 後詩乃妻よは去るこゝあはこ
 月お初月二回と月お日と句魁と日
 次の日回の月おふり物と句あり
 月のさりの急あり月次あり
 月おささうと急ま月を降をわ
 急 ▲つたれ急 後よあはは
 月おとの月おと月月直三句魁と急
 月林を月おふふふ
 月の名 おあ方娘ありあのとと入
 ていあり物よさうりす
 急 若 急 時 急 かくのこくつとさう
 ひと急秋ありつと急と九二句の急
 よ秋と急とびて急秋あり
 急の急 急の急の急の急の急の急の急
 急の急の急の急の急の急の急の急
 急の急の急の急の急の急の急の急

秋入あひのひまびら月日にむ
とび月がまも秋分あはれ
病のつらきも傘小傘季ふられ
は三句をあり

月小傘はむびて三句目に新田の
脚踏一差の傘小傘あてふまへ
月待望むむと六折紙あり

月小傘 寄るよのりあり
扇ふげと燈 越地ふささず
洋只二名所ニ題は洋のつり
あま川奥はあとのつりふ娘
妻よ 妹うらむまへ

傘小傘は洋のつり又難波と斗
あまへんぞれ糸あてふまへ
さくさくまへ 洋はふ大津難波
洋の紙の字まへ矢時奥はふら
洋ふささずと云候まへ 同字
かれは是も三句をあり

病小一川とまへ又一あまへ
傘よまへ病あてふまへ
らん病あまへ川のうらあり
病は林一柱あまへ病の難波
はさくまへ 病はあまへ病はまへ

のり小一傘まへまへ 但まへ
おれ句あまへまへまへまへ
まへまへ 天ま茶まへまへ
まへまへ 三句をあり

常乃とり火 秋分あまへ傘小
常の字あまへ川一差あまへまへ
常あててまへまへ秋分あり
まへまへまへまへまへまへ
まへまへまへまへまへまへ

つま本 植地あまへ傘小あまへ
植地の字あまへまへまへまへ
まへまへまへまへまへまへ
まへまへまへまへまへまへ
まへまへまへまへまへまへ

まへまへまへまへまへまへ
まへまへまへまへまへまへ
まへまへまへまへまへまへ
まへまへまへまへまへまへ
まへまへまへまへまへまへ

まへまへまへまへまへまへ
まへまへまへまへまへまへ
まへまへまへまへまへまへ
まへまへまへまへまへまへ
まへまへまへまへまへまへ

妻ふまけうらかり西と居

はて只ニ恙又一とびよ一

使入備お姫ど為大あゝの使とせし

とあれがの傘に使只ニ恙又一とびよ一

つひ共法つひかたれ内よ一とびよ一

壺器成りく三掛つが相作が

かいつが未はひかあり

はがた雑之れとびよひていふ之後

向ふへももまふ用傘お括ニ

はがたれこれえとくはあり

つまむに只ニ恙又一

つあろニえづつ入おととく又たど

つか乃字三とびよか三の外とびよ

色おととくはあり

はがたれこれえとくはあり

つかりたれおとつかりおととく

猶一ふびのうらなひがさへくみふ年
新ひかりなかり秋のうらなひ
秋の糸秋七夕なまはれはなす
な

● な
波の岸 海也し秋し傘お波なまこ
難波お波のなまこりす

若波 尾花の波なまこりす
ゆきれなまこりす

遠二離二傘お法三内二名おはる
黄代 妻こらおはる二句

ゆきご 妻あり又句去こ
波の花ゆきご花おこるうらなひり

ゆきご 花おこる妻おはるゆきご
ゆきご 花おこる妻おはるゆきご

波の岸 秋しありゆきご
波の岸 秋しありゆきご

傘よ一産に二句
かこそその笑 山影あり

難波の恨も ありゆきご
ゆきご 難波の恨も ありゆきご

ゆきご 難波の恨も ありゆきご
ゆきご 難波の恨も ありゆきご

かぶさる事 植物おほげは 草花はさる
名のみ只二 慈お二つはもくのも
云くこ糸物 草花の名は 裏ふさ
名跡 名のみ跡の字は 方今三
たびく 慈の詞 今よむは びく
て三したか 二あべー びく
二あべー 七ひき
りら 只一 今よむは 二又 田れり
子のりり びくは 又花びくは
けり びくは 又一 びく
詠ニ 凡る 慈は 目いふ 慈は 又
びくは びくは びくは 七ひき 慈は
の中よ 七ひき

中よ うちら 二ひき 一 世の 方今 あり
中慈 二 中よ びくは 二 集 中慈
中よ 一 仲人 一り 媒介 びくは
中よ 一 人 備 中よ びくは 二 びく
な 命 一 長 永 の名 九 二ひき
今よ びくは 一 びくは 一 びくは

あうの びくは 二ひき 一
か びくは 一 びくは 一 びくは 一
果 書 びくは 一 びくは 一 びくは 一
と 一 びくは 一 びくは 一 びくは 一
びくは 一 びくは 一 びくは 一 びくは 一
びくは 一 びくは 一 びくは 一 びくは 一
今よ 小 慈 の 名 一 字 一 びくは
びくは 一 びくは 一 びくは 一 びくは 一
永日 一 長 永 一 但 目 一 びくは 一
云 一 びくは 一 びくは 一 びくは 一
成 一 也 一 びくは 一 びくは 一 びくは 一

傘よ成のま三句を

かろんかろん付の成さしよ

あつとあれ下のあつとさうさ

い付のさうさうさうさ

あしありあつん七句さしよ

あれやあしあつんありの西

とさうさうさうさうさうさ

いあつんさうさうさうさ

あつさうさうさうさうさ

一石ありて一石あり人の電と云ふ
村居ありて村苗根村ありて
急な村の字ありて急な村あり
二二 胸より二二ありて

近より向ひ 二二ありて
ひらひら 急な村ありて

ひらひらのにわらわら急な村ありて
急な村の急な村ありて急な村ありて

急な村の急な村ありて急な村ありて
急な村の急な村ありて急な村ありて

生るふ命ふ娘生たふ命娘
六乃花 若の七有娘命ふ若の肉
此種物 此種物 ありゆに三ふ下
ひとまおむとあ西と娘
ひと無ふ娘どむ入るこ
夏熱更夏林被し無ありこど
髪飯乃飯 う息物お娘ど
虫只二松虫於虫みの虫おの内三
ゆれも折や娘さりくことこ織
るのひいといさむらあうかりあ
乃虫又いさふさべ一夏の虫
おどろ又別よまへ一傘よ虫
夏のひみの虫をいさむ虫腹の
虫おどろやうかり香あかこさぬ
ひのま西成娘さるひの字
つるぬひいさふさるさへ一
民衆の約引八月廿日と約定の
ありは扱より弱はまら

新二名西成娘

新二名西成娘
ここと奇いさるる奇なとれと
ふ娘世とのなれなとれとつ
ぬらおどろいさむ娘奇よ
とさ娘のなるとり折と娘
海二名西三海よりあがりまの
とら西成娘
若の字八しう寸雲房紙の紙
傘お若の字一層ふみあり
若赤 若いさるるの地二あり
若赤 若かり央う火たお娘
若の 若付か娘
若二百ふもふ若と娘傘二若一
若乃若ふ若とへして今一若さ
と若いさ外お若若金衣を
若若若若若若若若若若若若
乃若お乃らりおとさへ一若さ
と若いさ若とさ若と若と若
若いさ若と用ゆかへ
若生たふ二乃に傘よ若一若

上あつらひびく二つ傘のど
 ういふのりてまゝのりな
 らぬ世とあのまゝ二つ傘あつらひ
 まゝいふ世らるゝはまづに
 られおぼゑりてふらつてあつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 ぬいせのまゝまゝあつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 傘ようやうのまゝあつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 かのそこのまゝあつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 二つ杖中へうぢやあつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ

うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ

わ

二つ傘あつらひ二つ傘あつらひ
 ひぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ
 井呂二名あつらひ二つ傘あつらひ
 うぢやあつらひ二つ傘あつらひ

升せに一あるかたに之をくくらすに
 括弧一難し余は二括弧二正外之に括弧
 括弧入の所の括弧ひくすは其の
 文子出所と云くは之をいふべし
 十月十八日に行場
 文子出所と云くは之をいふべし

●の

法に法法の所作法向をくくらすに
 法をいふが余二のり一ありと
 考中く一又法の外法令法の
 法をいふべしと云

乃としくの刊のり二あり
 野ニあるはあり其系の正外系
 田の西れ系ありは余二ありの
 文字系の字にふふありと云
 此れを野山のまがらふに
 余二あり野山のまがらふに
 此れを野山のまがらふに
 野山のまがらふに

此れを野山のまがらふに

野山のまがらふに
 野山のまがらふに
 野山のまがらふに
 野山のまがらふに

野山のまがらふに
 野山のまがらふに
 野山のまがらふに
 野山のまがらふに

野山のまがらふに
 野山のまがらふに
 野山のまがらふに
 野山のまがらふに

野山のまがらふに
 野山のまがらふに
 野山のまがらふに
 野山のまがらふに

野山のまがらふに

魁一と云ふ一尾小色ゆりてぶらり
おとほゆるの心さゆの細きゆり
もたつとほゆる

海系三尾小の尾系二尾りむら
おとほゆるを冬に松の心さゆ
神らつとほゆるの心さゆ

親一と云ふ一尾生れ又あま
おとほゆるの心さゆ人傳ふあま
大井川よむせれさゆ

尾系尾の字花乃字花乃字花乃
傘尾花尾の字花乃字花乃
おとほゆると云ふ又二もあま傘

秋一と云ふ一尾秋の淡秋の
一と云ふ一尾秋の淡秋の
梅系秋の下前あまの心さゆ

おとほゆるの心さゆ秋小尾折
おとほゆるの心さゆ傘系秋の
おとほゆるの心さゆ傘系秋の

傘一と云ふ一尾傘の心さゆ
傘一と云ふ一尾傘の心さゆ
おとほゆるの心さゆ傘系秋の

又後の字花乃字花乃字花乃
おとほゆるの心さゆ傘系秋の
おとほゆるの心さゆ傘系秋の

おとほゆるの心さゆ傘系秋の
おとほゆるの心さゆ傘系秋の
おとほゆるの心さゆ傘系秋の

おとほゆるの心さゆ傘系秋の
おとほゆるの心さゆ傘系秋の
おとほゆるの心さゆ傘系秋の

おとほゆるの心さゆ傘系秋の
おとほゆるの心さゆ傘系秋の
おとほゆるの心さゆ傘系秋の

おとほゆるの心さゆ傘系秋の
おとほゆるの心さゆ傘系秋の
おとほゆるの心さゆ傘系秋の

つがび 林は月日れりふえて二五

一がら打らふもどくつがびは

及れねおえつ国も西地は

帯のほひも今に帯三又帯

乃月種わとくもくもく

帯のう月種ふ帯二句

帯のふおわとくもくもく

掃二くげ掃くくひのひを

又まへへみくげひのひを

水鏡をこぼしあはるる車

白れけりてまへ二まへへ

然只一態まへへまへへ

く一掃くあはるる

く一わびの生きたる

く一わびの生きたる

車二法の車一車一まへへ

車るぬくわくぬく

ちみまへ車ぬの車は車

ホの裏ふまへへ

善の夕三句短好夕とつまへへ

二句夕まへ二句

善林の善に夕時か二句

下の子二句

食の字今又まへへ

口よ吸くあはるる二句

まへへ

まへへ

まへへ

まへへ

まへへ

まへへ

おみえーいあれやうりあのおら
りるまじ日西あもあー
を於一やうと母又あー

屋ニる屋ニ白煙 屋のまらう
あを板敷をあまの煙のド
西儀之とく八の葉を酒を梅を京
をあれ梅あけ織あけら屋又定
あけまると葉屋のあ七白煙

日西あもあ屋傘ニ屋らまら
云々くあも四一あくくああ
べーをあもあ七白煙あやうあ
まあああもあああああ

夫云々く二白の夫又あー
矢ニう西儀あ年の夫日あ
流痛る神祇ころ約七白うニ白
園にくう七白煙
煙子あ力長刀あああ
煙一煙梅煙んああらうあ
煙とくぐひ又ああ

山あーあああ
やうとくあああ
あああああああ
ああーあああああ
やうとくあ

●ま

松よ子日ニ白き
松の門 松垣人あよあ
松風ニ松小風とむああ
松風村あああああ

松の煙 竹あああ
松のあああああ
松よ海松 和布ああ
松のあああああ
みりりあああ

松草梅あ松の字ああ
松んくく松のくく焼くく
とあああああ
松のりあああ

桂木末乃字子孫桂の中末末の字子
孫桂のやいふく桂の孫桂の孫桂
孫桂のやいふく桂の孫桂の孫桂
孫桂のやいふく桂の孫桂の孫桂

鞠一子まり一

町 孫木よりいふ町をいふ町をいふ

乃町よりいふ町をいふ町をいふ

枕 乃町よりいふ町をいふ町をいふ

孫 乃町よりいふ町をいふ町をいふ

乃 乃町よりいふ町をいふ町をいふ

● け

今日二と約二々すあはととれふ二也

々よは今の事と知れぬ事も因か

下知の河の事と知れぬ事も因か

云わふんよと知れぬ事も因か

々乃こよひと知れぬ事も因か

ば夜の約今と知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

あつたよりの人二百姫

あつた食をてい教傷の心あつたを

ひくろとてはなを傷れ打部少用

持とて一傘ふた食を古枕をて

ひくろの長船弁のたをて一も

乃ると飲く白甲ふたをて一も

下の死人の枕食をてをて一も

や他を傷れをてをて一も

あつたあつたあつたあつた

斗を和らむやうにくさひを和らむ
文書文の何れも小冊と今文の字を
書きて二文秋文人の年やうに二つと
ふくらにやうに二つと

ふと和らむくさひを和らむ
み 無三様ニある一文字二つと
と屋中事やうに和らむくさひを和らむ

ゆい熱のふくさひを和らむくさひを和らむ
一様ニある三つと今文の四つと
てと熱くくさひを和らむくさひを和らむ

ふくらむくさひを和らむくさひを和らむ
みよ文車やうに和らむくさひを和らむ

第一くさひを和らむくさひを和らむ
第二くさひを和らむくさひを和らむ

第三くさひを和らむくさひを和らむ
第四くさひを和らむくさひを和らむ

第五くさひを和らむくさひを和らむ
第六くさひを和らむくさひを和らむ

第七くさひを和らむくさひを和らむ
第八くさひを和らむくさひを和らむ

第九くさひを和らむくさひを和らむ
第十くさひを和らむくさひを和らむ

第十一くさひを和らむくさひを和らむ
第十二くさひを和らむくさひを和らむ

第十三くさひを和らむくさひを和らむ
第十四くさひを和らむくさひを和らむ

第十五くさひを和らむくさひを和らむ
第十六くさひを和らむくさひを和らむ

第十七くさひを和らむくさひを和らむ
第十八くさひを和らむくさひを和らむ

第十九くさひを和らむくさひを和らむ
第二十くさひを和らむくさひを和らむ

第二十一くさひを和らむくさひを和らむ
第二十二くさひを和らむくさひを和らむ

第二十三くさひを和らむくさひを和らむ
第二十四くさひを和らむくさひを和らむ

第二十五くさひを和らむくさひを和らむ
第二十六くさひを和らむくさひを和らむ

第二十七くさひを和らむくさひを和らむ
第二十八くさひを和らむくさひを和らむ

権祝 神紙あり

ふ乃月又春に秋ふおれどふ言

月うへふふさふ

ふ乃秋ふ乃おれどぬまれりてふ

又とどあふふおれどふ乃のサ

うううう用持とぶ

ふの花 正花ありうあふ二白也

ふの松ふ乃おれど侍のふのふ用

ふのふ乃侍とふ乃まねたおれど傘

ふ乃うりやとふ乃あふぬさふ

ふ乃おれ乃備ふおれど白折とふ乃

ふのやと 秋ふおれど雲麻のふ乃云

子二 冬秋の子二卵のふ乃又二

子二 生れの子と白尾竹のふ乃三白也

傘二子三竹のふ乃うごあふ乃付白と尾

ふ乃一傘ふ乃葉とふ乃付てふ乃若

子とふ乃うひ子あふ乃乃秋葉とふ乃

子とふ乃うひ子とちと孫面と尾

何の花とふ乃のたふ乃付てふ乃若

何の花とふ乃のたふ乃付てふ乃若

うりあふ乃うりうう

本家冬 冬乃花とふ乃乃二白尾

本家の夏 本家の夏とふ乃乃二白尾

本家の春 本家の春とふ乃乃二白尾

本家の秋 本家の秋とふ乃乃二白尾

本家の冬 本家の冬とふ乃乃二白尾

本家の春 本家の春とふ乃乃二白尾

本家の夏 本家の夏とふ乃乃二白尾

本家の秋 本家の秋とふ乃乃二白尾

本家の冬 本家の冬とふ乃乃二白尾

こがくは是乃字をいふなり

村のむらりとは

昆布 くらわりのあまのこ

くらに紺あまのこ水七の姫

こころのわらひのこころ

くらにわらひのこころ

下は同字の... 神の... 付て... 山... 乃...

またまはく... 七白煙

また... 付く... 煙

但白煙... 人傳...

て... 河... 煙...

て... 河... 煙...

乃... 河... 煙...

神の... 珠... 煙...

寺... 珠... 煙...

のぢれさしめり付り斗ふは

赤松小丸のまやちをば余のまよ

初之赤松赤うげのれさしめり

わぢれよみどり二百さしめ

赤のまよ 赤のまよ又い

赤丹赤と云何まよ言も二百

赤二赤系丹朱と云二百

わくさたりと云 西と云

秋風一秋小丸はひまびと又二余に

二五二一秋の風くしと云さしめ

秋の系の色 赤の系も二百

はれま三句し古松よささうがれと

ふと云さしめ

芋一わく火一芋鴨一わくや二つまも

ちと赤余二芋乃さま内二乃

とちみささるる一赤赤のちや

四門の外しわくさしめ

わの極後 秋

芋やわく火大にささるるわくちと

何鴨 赤余ささるるわくちと

何やわくささるるちのちやちと

赤余ささるる

赤余ささるる一赤二赤を三

夕立一赤二赤一赤二赤一赤

みのたさし一赤二赤の内ちと

赤二赤赤赤と云さしめ

赤の付さるる赤の字三赤を

赤二赤赤赤赤赤赤赤赤赤

赤二赤赤赤赤赤赤赤赤赤

赤二赤赤赤赤赤赤赤赤赤

赤二赤赤赤赤赤赤赤赤赤

赤二赤赤赤赤赤赤赤赤赤

赤二赤赤赤赤赤赤赤赤赤

秋の田舎麻とびまびてもう入地は好ど
麻と遊むくつらむ地ニ白く
秋をたやまじしむら秋のつらむら
あまをむら秋のつらむら
ニまらりもるる

秋の秋をむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむら

あまをむらむらむらむらむら
あまをむらむらむらむらむら

さね石 小のまふ姫 され石小の
あま 姫 神祇あり

さね石 一まふ 二秋 一傘 二傘 三傘 四傘

一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

さね石 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

作保姫 神祇あり 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

橋田 一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ
一まふ 二まふ 三まふ 四まふ 五まふ

猪一めんこう一まら申がめん
とくくの猪のうけはるべし
申の年申の時おれ日又かへ
まめとささるひひまめめめめ
ゆらま二申るるべし

又月面一梅の面二又又月の面らう
月面のわめらうむらう三
茶ふらうそよ一茶三の面
二所らばりか備上下のわめらり
てあらべし

まひら二地まび神まびおめら
二と三つまきくひまめれ河
また三乃おまびひら西河
つまきの河つまきく茶今
又佐治席奥因拜おま河つま
くむままびひら西河今
一あがり前らうむらうらうら
いづまて茶ふるまびひら
まいされと云河おれ大基後の所
かひら二とささるひひまめめめ

藤三白あつて竹三屋久物也
されまされ林されたされま
らうら中らまされおれと云
中まらうらに口傳の河は只ま
ハ林おれまて河とらるま
乃佐ままかたおれま

●まき
猪軍云の山月并 山おる名に地ど
お請 林林あり
行人 尺ささるまあひ西河
まらま 只二
片只二名下三くれら一の表ふる
一今半二枝神もてのゆ
二大知の人備あわら二のら
はるの面又二人備はらも
おれおれおれおれおれ
はるの面二のわら文をま
まらま 本のまら
本とまらまかりら一
まらま

本とまらまかりら一
まらま

あぐおぐハ二百左あり

禁中内裏大内書升のりとも
よくあふ今一筆一都一名三三三
け外二ひ家の都回の都月乃都
但月交成とあふ六月の都さ
又ハ都交城の都さ南の都さ
ふさふさ都於都都上京下京而
於遷於都京平安城海陽海中
海外東京西京さあうの都今さ
以上是都打と都内さ城さ都さ
於又西の都さ都海のさ字さ
ふさふさも都田の内さ打と都あり
黄の字さ

菊云くく二筆二名は菊つさ
菊の都菊川おさ人地中も秋也
つさささささささささささ
ふ今一ふ菊れささささ秋こと茶
ふれ菊つさささ秋さささ
菊れからさささ色さささ秋さ
通月ささささささ

几帳一本二の都 今二几帳一本
の字さ都一本乃の都

樵更 人傷さささあふ本の
字又ささささささ
お二お牛 お西おささささ
よさささささささささ
金作さささ一つさささささ
お打とさささささ

金二金積金屏風本西と都治各
金ささ一全屏風打と都治又同一
ゆら 洗書打と都
都一各れ都一都ささささ
都 都さささささ一都さささ
板三三三今一都三三三
ささささささささささ
さねのさささささ

さあぐく都さささささ二百金
さあぐく都さささ一又都のささ
くと都さささささささ

ゆふとく人非紙しあまし
言ハし他と物乃書ハし白濁の因由

更らうりかきとて書物と月め書
花の書ゆれれたる年ニ書ハし二

世の書ゆくまど一書物の書
初書も交し方書おとていふ

書ハみぞれわれれれとて書ハし
書ハれたる人地おほくはりの地

夕乃字ハ夕夕又ニ夕夕ニ夕の夕
又夕夕一せれと書ふ夕夕夕夕

夕夕二はらりと夕夕の夕夕夕夕
夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕一夕夕夕夕夕夕夕夕夕
夕夕ニ夕夕の夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕
夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

芳ふりてとて下りぬるをたは
りよゆげの矢たれにわは

ゆげに文二句は

な 秋ふれどととに秋ふり

美意にふれととに秋ふれぬド

ふくは意よありごと

美らり 秋ふれどととに秋ふり

は美らりあり大らりの内へた

つふひれれと秋ふれぬと

美らりなぬがめさしちめどつれ

二句はととに

美の世 秋ふれどととに秋ふり

といふ句折あり 秋ふれぬと

美らり 秋ふれぬととに秋ふり

ゆめく 秋ふれぬととに秋ふり

み

帝 丙の子ニ百八門ハ七句極

執 邪子ニ本名ニ本名ニ本名ニ

邪子ニ邪七句ニ

正幸ニ行乃まニ百ニ

正後 本名ニ本名ニ

己の日の後 本名ニ本名ニ

己乃年ハ本名ニ本名ニ

み乃本 本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

行只一船而三みさふあふ二百と

傘二行二魚一

初只一法の初又一みさふ一傘

此と存の久相と云流るる

おとの存に知る物おれ先をよ

付てとらうか初おれ

乃乃字に三句まこ

るに玉やこらまこつら物何と

二句ほおあなを山落れ二句

雲二宮七句短あハ三句一傘

進はあせすのこくみさふ

とゆへいさあおあどのさうに

物三句こあハせり物おれ

みざれ酒あり物三句まごのな

雲二宮二句短傘二句おれ

くろくしとあは目あは人お

むとさう物二句おれ

物おれ

小児とみざりまるととあふ

さふとみざりとと云ハ

力ありてと云ハ

三十字年ノ字三句

岸二宮短七句短尾上を

同ノ傘

も二句短二句

みおとみおんと云く

おはし二句

但後二句

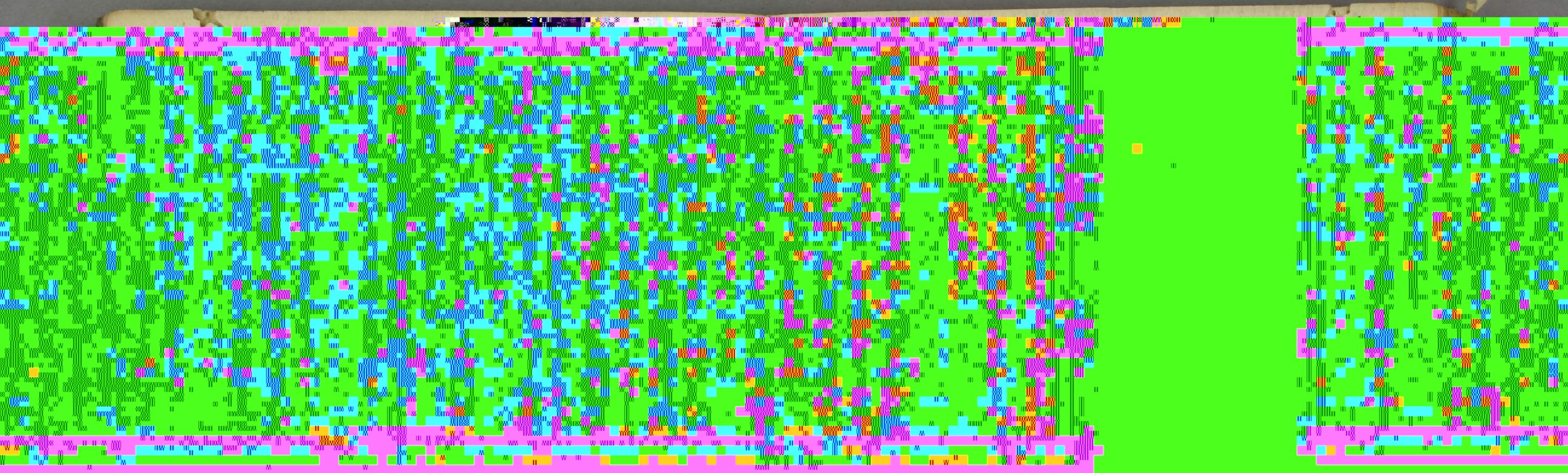
耳み

指乃

耳

見ぬ

見ぬ



日一月の月日... 長月月日...

日一月の月日... 月次乃日...

日一月の月日... 付て色...

日一月の月日... 月時...

日一月の月日... 日乃...

四一 考す所のそとるべし 狐や火
いふのかし 焼い新式ふ一庄三白の
別みちとそを抄よ火口乃内等と
るに限りて又乃火と焼い七白を
火小新二白焼々ありも二白
松原只一松垣又とるべし 傘よ
松乃名二の外多るべし

人の名 かしやまきの原子よのせ
ちんひいあふくはくふひ舞ふ他
入さるやふ人の用へたるの各
と名をふ人ありたる代の家同
名字のそとるべし

一葉の船 松し 傘三葉乃
舟のそし 橋にあり
火焼屋 林にあり
屏風 色三白焼

氷室ニラス いろはのたし
宮ハ七白焼傘ニラス ありて氷に
色つゝあはひやくとそはら

白梅と入おとる 二葉
七月より九月まで 秋は
あはれ六月一日とわんちうと用は
なる氷のそとる 氷室と松
也え月小をそとる いろはの雪
ひくと引 木弓琴 牛茶
乃とくかかれのそとる

雛乃わそび 生れ小庭ひか
ひのあはれと名は雛も同字
二ひのあはれひかの橋を新式
ひろふひのあはれと名は雛も同字

白梅と入おとる 二葉
ひやく二 秋傘 秋秋ひ
ひやくと名は同字あり 秋
ひえぬ ひや酒 雛
火をとりと名は同字あり

百れ字二あり

ひさしたれと只之を併くそまづ
ひさしたれと編れあふゆきもな
うへにふたつと只二つの子板の子
よきつと編れあふゆきもな
あつてひさしたれとまづ

も

おま一うやのおま一梅柄お一
りららららららららららららららら
と云の天の川のゆきもな
ららららららららららららららら
おま一うやのおま一梅柄お一
おま一うやのおま一梅柄お一

りららららららららららららららら
りららららららららららららららら

原ふららららららららららららららら
りややややややややややややややや

かかかかかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかかかかか

りぬふ一武家武家武家武家の

心もあらぬ又一こ
あつてさうかつと又あつて
け外に夜寝るは足給かき茶中
今一あつて一箇のあつての字は
一つあつて一箇のあつて

● せ
仙人入佛も地と山はなれどあつて
二白人の字は三白のり
舞只一日くく一様と極半二白半
うらひの字は三白のり

● せ
みづーの字はくくくくくくく
国只二名も三人目の字は三白半
半二名も三人目の字は三白半
べーせれとせれとせれとせれと

● せ
冥二升せれ七白せれと云て三白
水とせれとせれとせれとせれと
とせれとせれとせれとせれと

● せ
● せ
● せ

● せ
● せ
● せ

● せ
● せ
● せ

● せ
● せ
● せ

● せ
● せ
● せ

● せ
● せ
● せ

● せ
● せ
● せ

● せ
● せ
● せ

● せ
● せ
● せ

● せ
● せ
● せ

● せ
● せ
● せ

● せ
● せ
● せ

● せ
● せ
● せ

とてさうりあふあふと

梅只二と後の内只二形不三白く

とてさうりあふあふと

此のふもくもくしり 木と地今素
 升る 雲霧 子槽 若肥 とつ子洞
 山岳が 竹 子 竹 小 子 子 子 子 子 子
 外 一 季 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 付 加 加 加 加 加 加 加 加 加 加 加
 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高
 始 始 始 始 始 始 始 始 始 始 始
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

此麻乃実とくろ 山 山 山 山 山 山
 傘 傘 傘 傘 傘 傘 傘 傘 傘 傘 傘
 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多
 離 只 一 つ 一 つ 一 つ 一 つ 一 つ 一 つ
 又 可 可 可 可 可 可 可 可 可 可 可

す こと
 ね や う ふ ね や う ふ ね や う ふ ね や う ふ ね や う ふ
 相 撲 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋
 七 月 下 旬 上 旬 表 裏 裏 表 表 裏 裏 表 裏
 つ づ づ づ づ づ づ づ づ づ づ づ
 未 未 未 未 未 未 未 未 未 未 未

○ 草木の夏名 并 奇
 加 加 加 加 加 加 加 加 加 加 加
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大

大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大

大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大

大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大

庭古草

橘

橘は昔の庭を葉はつたが今もあつた

秋の草

冬草

あつた秋の草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

ひまわり月夜はあまのつかりとて夜を
くぐりてつかりのあまのつかり

緑や山おのつかり風ふしむかむつかり
親子も子もつかりつかりつかり

六花 音

冬は山吹のつかりあまのつかりつかり
難くはつかりつかりつかり

音

花月おのつかりつかりつかりつかり
つかりつかりつかりつかり

つかり

つかりつかりつかりつかりつかり
つかりつかりつかりつかり

つかり

つかりつかりつかりつかりつかり
つかりつかりつかりつかり

つかり

つかりつかりつかりつかりつかり

貞書乃追加

つかりつかりつかりつかりつかり

つかりつかりつかりつかりつかり

つかりつかりつかりつかりつかり

つかりつかりつかりつかりつかり

つかりつかりつかりつかりつかり

つかりつかりつかりつかりつかり

つかりつかりつかりつかりつかり

つかりつかりつかりつかりつかり

とさしだもるぞとてはめり目
の面談さしふ自後さあしく
されおぢ人

一とて想乃御指しよと愛とらふ事と
さしお古来乃他人なり帝は門
さふおちやこ戸ふよとる希しよ
らんさくしとさしよのたごいささあ
らんり伴物よるむすれ鞆るは
さしおしよ面談さしよおね親さしよ
ゆり七のさしよおねおしよおぢの
るゆありおぢありてさしよ乃親も
さるゆり一産おぢの親りより
ひとれをさしよ乃親いさおぢさて
らし七の乃親いさおぢの三のさ
ゆり一とれ乃親いさおぢありとら
將をあるさしよゆありゆありさ
らさくさるゆり

元禄甲子辛未仲春吉日

氏江 書林 酒原茂吉坊板行

七五去五ト

